



けやき会は1991年の創立以来、四半世紀の歴史を刻んできました。この間、卒業後官民学など幅広い分野で活躍する約9000人の同窓生のネットワークの強化・拡大に力を注いできました。同窓会総会の開催や会報の発行、ホームページでの情報発信、などの活動を進めてきました。また、教養学部とも協力して、教育研究支援金の寄贈など教育・研究支援にも積極的に

あいつり

けやき会会長 榎木 誠

(70年卒中国文化)

埼玉大学教養学部同窓会だより

# けやき会

第16号

取り組んできました。

国立大学予算の削減、人文・社会学部見直し論など埼玉大学と教養学部を取り巻く環境は、年々厳しさを増しています。逆風が強まる中で、よりよい研究・教育環境を守る上で、同窓会が果たす役割はますます大きくなっています。

2013年度からは教養学部のご協力を得て、卒業生と在学生を結ぶ学びの場として、教養学部の講義の中に、けやき会の寄附講座「経済事情——グローバル時代のキャリア形成」(2単位取得)の授業を開講しています。寄附講座は5年を経過し、教養学部生だけでなく、経済・教育学部生も加え受講生が60名〜100名に上るまでになっています。

授業では、国内外の各界で幅広く活躍する同窓生の方々に、グローバル化最前線で蓄積した貴重な経験と

見識を在学生たちに還元していただいています。同窓生と協力して、「就職セミナー」の連続開催など、在学生のキャリア形成や就職支援の活動などにも多面的に取り組んでいます。

また、けやき会は、経済、教育、理学、工学など他学部の同窓会と共に全学横断の「埼玉大学同窓会」を設立。大学とも協力して、毎年10月のホームカミングデーでの講演会、交流会の開催にも取り組んでいます。とりわけ、2017年10月のホームカミングデーでは、講師に理学部同窓のノーベル物理学賞受賞者の梶田隆章氏をお招きし、500人規模の講演会・交流会を開催しました。2018年度以降も同様の催しを10月に開催する予定です。

けやき会は今後とも、全学、全学部さらに専攻別や学年別など同窓生同士の交流の輪を有機的に結合する組織としての活動をさらに強化し、深化させていきたいと思えます。同窓生の輪、活動の波をさらに強固に広げていくためにも、会員の皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます。

## 2018年度けやき会総会・講演会のお知らせ

参加して交流を深めよう！

日時 6月30日(土) 1時半 場所 埼玉大学大学会館3F

講演 田口美一 金融経済アナリスト

日本銀行・東京海上・クレディ・スイス証券など勤務経験

演題 「グローバル時代をいかに生きるか」

総会 午後3時半

懇親会 午後4時～午後6時 会費 5000円

第2食堂職員食堂 ※2次会あり



懇親会にて

## 多様化の進む

### 教養学部

学部長 市橋秀夫

2018年度と2019年度、もう1期学部長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いたします。

全国の国立大学が文科省から強く求められていることのひとつに、入試改革があります。教養学部でも、2017年度に実施した入試から定員20名の推薦入試を取り入れました。学力では測れない能力を入試で考慮するよう言われています。

大学全体の定員の30%ほどを学力テスト以外の方法も取り入れた入試とすることが、すべての国立大学で求められています。

教養学部では、初めて導入した20名の推薦入試にご名を超える応募がありました。この推薦入試は、内申の平均点4.0以上で校長の推薦が条件で、各校1名のみ応募ができます。推薦入試に申し込んだ受験生は、入試の当日に小論文と面接を受け、それによって合否が決まります。

推薦入試では、学校ごとにいわゆる偏差値は異なるので、内申評定4.0といっても、その水準は実はまちまちです。これは不公平ではないかという意見もあります。また、面接や小論文ではどのような勉強をさせればいいのか指導に困るといいう声が高校からは出されています。

入試の方法はどんなものでも長所と短所があるかと思いますが、推薦入試で合格してきた学生たちがどのような大学生になり、どのような人間に育つのかはまったく予測が付きません。これまで教養学部では、帰

国子女入試や留学生入試、また3年次の編入試などで、かなり性格も能力も異なる学生たちを受け入れてきましたが、この推薦入試によって、これまで以上に教養学部生が多様化していくことは間違いないように思います。

女性教職員の幹部登用の推進も、近年国立大学に強く要請されています。2018年度は、広報・社会連携担当の副学長に、教養学部の井口壽乃先生(芸術論)が抜擢されました。これで副学長のうち2名が女性となり、全学の運営会議や教育研究評議会でも女性のリーダーシップがこれまで以上に発揮される機会が増えていくこととなります。

教養学部は、女性教員比率も外国人教員比率も高く、この点でも埼玉大キャンパスの「多様化」促進の中心的存在だといえます。最後にもう一点、2018年度は一度に5名の新たな、若い専任教員を迎えることになりました。年齢構成の面でも、若干の多様化が起こりそうです。

財政的には苦しい状況が続いていますが、学部・大学

院5年一貫制度の導入や、合衆国南部のアーカンソー州立大学とのダブル・ディグリー・プログラム締結など、学生の教育面での制度の拡充を積極的に図っています。けやき会に集われまます教養学部卒業生のみならず、まのいっそうの熱いご支援を、どうぞ引き続きお願いいたします。

## 退職する

### 先生から

#### 澤田和彦先生

(日露関係史・ロシア文学)

私は1988(昭和63)

年2月1日に埼玉大学教養部に講師として赴任しました。その前は新潟大学人文学部で助手をしていました。私の着任当時の教養部はまだのんびりとした雰囲気であらゆる点で余裕が感じられました。新任教員には希望のパソコン1台が提供されましたし、教育研究費も今から見れば潤沢でした。

教養部時代は卒論や修論の指導もなく、入試業務も

共通1次試験(現在のセンター試験)くらいのもので、自分の研究に多くの時間を費やすことができました。教養部には社会科学や自然科学、体育の先生方もおられたので、いろいろなことを質問するにも恵まれた環境でした。

教養部で私はロシア語とロシア文学の授業を担当していました。一番の思い出は毎年夏の終りに1年と2年のロシア語受講生を連れて群馬県草津町にあるセミナー・ハウスへロシア語合宿に出かけたことです。これは私の同僚(先輩)の佐々木照央先生が私の赴任前からやっていたもので、



モロッコモハメッド5世大学に



草津での合宿



前期の授業で教えた内容を長い夏休みの後に復習、確認させて、後期の授業へとつなげるための工夫です。合宿では2年生に教師役をやらせましたが、これは2年生の復習のためです。このような授業を2泊3日でも連続で行ないました。これだけ勉強したのは生まれて初めてだ、と学生がぼやいていたのが思い出されます。

当時の埼玉大学の外国語学修は、英語は必修ではなく、他の外国語の単位だけでもOKでした。例えば教

養学部生がロシア語を選んだ場合、1年次に週3コマ、2年次に週2コマ、3年次に週1コマ、ロシア語を学びました。従って3年次には、今から思うとかなりハイレベルの授業を行っていました。理学部や工学部にもよくできる学生がおり、工学部の卒業生の一人は現在モスクワに駐在して活躍しています。現在の埼玉大学では英語が必修化され、その他の外国語は教養学部での1年次必修を除いて等閑(とうかん)(なおよざり)視されている感があり、その結果学生の外国語の語学力が低下しているのは残念なことです。

1995(平成7)年に教養部が解体し、私は教養部に配置換えとなりました。それに伴い、教養学部で比較文学を担当しておられた吉田正和先生、同じく教養学部に配置換えとなった佐々木先生とともに新たに「スラブ文化コース」を創設しました。当時の教養学部は16のコースに細分化されており、なかでも「スラブ文化コース」は常に学生数が少なく、「ドイツ文化コース」、「フランス文化コー

ス」とともに「髑髏(びくろ)ろ・ほとけ」という有難くない渾名も頂戴しましたが、しかしコースに来る学生はそれなりに動機付けのある優秀な学生が多く、指導のし甲斐がありました。吉田先生ご退職の後は、野中進先生が赴任されました。その後、新潟県立女子短期大学の卒業生が毎年編入学生として在学生とともに「スラブ文化コース」に来るようになり、コースの充実、発展につながりました。また大学院文化科学研究科でお相手した中国人私費留学生とロシア人国費留学生はともに優秀でした。前者は中国に進出している日本企業に就職し、後者は留学中に埼玉大学で知り合ったウクライナ人留学生と結婚して(埼玉カップル)、現在サハリンに暮らしています。

その後教養学部は改組されて専修・専攻制となり、「スラブ文化コース」は「イギリス文化コース」、「ドイツ文化コース」、「フランス文化コース」と合わさって「ヨーロッパ文化専攻」となりました。すると面白いもので、かつての「髑髏(びくろ)」が一躍人気のある専攻へと変貌しました。私自身はロシア語、ロシア文学、ロシア文化、ロシア史、日露交流史などの講義と演習を担当しました。学生と卒業生の皆さんには申し訳ないことですが、正直言って会心の授業ができたと思っただけで数えるほどしかありません。完璧な準備をして授業に臨んだ時ほど、かえって結果は芳しくなかったように記憶しています。

埼玉大学と教養学部への私の数少ない貢献の一つは、2013年にロシアのカザン連邦大学と学生交流の協定を結んだことです。カザン連邦大学はヴォルガ河流域に位置するタタールスタン共和国にあり、ロシア全土の大学で二本の指に入る名門大学です。かつて文豪のトルストイやロシア革命の指導者レーニンがここで学びました。教養学部と大学院でロシアを専攻する学生が毎年1年間この大学に留学し、同時に向こうの学生が毎年埼玉大学へ来ています。かつて私は東京都内のある私立大学で非常勤をつとめたことがあり、いかなる手段を使っても出席票を手に入れようとする学生がいて不愉快な思いをしました。が、逆に埼玉大学の学生は余った出席票を返しに来てくれたことが何度もあつてうれしく心強く感じました。埼玉大学の学生は大人しいとよく言われますが、一度背中を押してやると、熱心に粘り強くやる学生が多いように思います。皆さん、卒業後も自信を持って社会で前に進んで行ってもらいたいと願っています。30年間有難うございました。

## 同窓生から

### 活力剤としての囲碁 華の六十代を謳歌

伊藤和由

(71年卒、日本文化)

行田市在住

囲碁の井山裕太七冠が、将棋の羽生善治永世七冠と同時に国民栄誉賞を受賞した。過去の受賞者はスポーツ選手や歌手、俳優などいづれも一般国民の認知度が極めて高い。それに比べると、羽生さんとはもかく、囲



碁界のスーパースター・井山さんの一般認知度はあまり高いとはいえない。だからこそ「囲碁界が注目していただけたことがうれしい」という井山さんの発言は、囲碁に携わる私にとっても同じ思いだ。

振り返れば、囲碁と出会ってから半世紀が経過した。学生時代はプレハブの囲碁部室が自分の居場所だった。とはいえ、そこは4人の面子が揃うまでの待ち合わせ場所的意味合いが強かった。ときには国語学の小松寿雄先生にお相手を願うこともあった。

定年後の現在は囲碁三昧の日々を送っている。「キョウヨウ」(今日用)と「キョウイク」(今日行く)に事欠かない。囲碁ライターとして某新聞の囲碁観戦記を担

当する傍ら、日本棋院埼玉県支部連合会事務局長、NPO埼玉県少年少女囲碁協会副会長を務め、県内で行われる老若男女の各種大会の企画、運営を担っている。日曜日の3分の2ほどはこれで埋まる。好きでやっている仕事だけに苦にはならない。

そう、碁が何よりも好きなのだ。碁好きの多くはひたすら「打つ」ことに楽しみを求める。好敵手を得て「烏驚」(うるゝ碁の別名)を戦わせる喜びは何物にも代えがたい。碁盤を挟んでの対局は「手談」(碁の別名)でもある。「私はこう打ちますよ。あなたはどうか応じますか」と、打つ手を通して対話しているのである。

菅原道真の「囲碁」と題された詩は「手談幽静処 用意如何」に始まり、「若得逢仙客 樵夫定爛柯」で終わる。「爛柯」(らんか)も囲碁の別名である。晋の時代、王質という木こりが森の中で童子らの打つ碁を見ているうちに斧の柯(え)が爛(くさ)ってしまうほどの時が経ったという中国の故事による。

現代から見れば時代離れ

しているかもしれない。現在はネットを通じて世界中に相手を求めることもできる。近年、急速にレベルアップし、いまや人間を凌駕してしまったAI(人工知能)との対戦も楽しめる。盤上の世界は広く、深く、ほとんど無限である。一局の碁は真新しいキャンバスに自分の思いを描く創造的営みでもある。

碁の楽しみは「打つ」のみではない。「独り碁や笹に粉雪の積もる日に」(中勘助)の句のごとく「独り碁」も楽しめる。静かな夜に独り、古碁や世界戦の棋譜を「並べ」楽しむもある。兼好法師の「ひとり、燈火の下に文を広げて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰む業なる」という読書の楽しみにも通ずる。

「日曜日昼は父さんテレビの碁」という川柳があるように「見る」楽しみもある。テレビ囲碁トーナメントばかりではなく、今はネットを通じて世界の打ち碁が観戦できるし、プロのタイトル戦も生中継される。盤上で練り広げられる格闘技のようなスリリングな展開に固唾をのむ。スポーツ観戦

と同じである。観戦記者という生業も「観る」ことから始まる。対局を観戦し、その状況や対戦者を紹介しつつ、打たれた碁の解説をしていく。長年続けているとさまざまな人脈も生まれる。そんな立場から『埼玉戦後アマ囲碁史』をまとめることもできた。

子どもたちの成長の過程をこの目で見守ることができるのも楽しみである。子どもたちにとつて囲碁の効用は計り知れない。脳の発達が急ピッチで進む子ども時代に、囲碁こそは勝負を楽しみながら脳に適切な刺激を与えることのできるすばらしい教材の一つである。心理学者の故多胡輝さんは「思考の範囲は無限に広く、創造的思考のこよなき訓練になる」と評している。囲碁は礼に始まって礼に終わる。

一方、勝負である以上、勝ち負けはついてまわる。子どもたちは勝つことで満足感や充足感を味わえるし、思いやりの心も育てていく。また負けることによって忍耐、自制心、向上心が芽生える。良いことづくめである。蘇東坡の「勝固欣然 敗亦可喜」は勝敗を超越して

いる。

「打つ」「並べる」「見る」楽しみのほかに「文化としての碁」に触れる楽しみもある。古来「琴棋書画」は四芸と称され、君子のたしなみとされてきた。囲碁(棋)は『源氏物語』や『枕草子』に描写されているのみならず、江戸の川柳にも数多く登場する。「源氏物語絵巻」等の絵画や浮世絵にも繰り返し描かれてきた。歌舞伎にも登場する。陶磁器にも描かれ、根付や刀装具にも彫られている。ありとあらゆるジャンルにわたっている。囲碁文化の奥深さを垣間見る思いだ。

私にとつての囲碁は、限りない豊かさをもたらしてくる活力剤になっている。「華の六十代」に幸あれ。

## 自己発見のための 異文化理解

中村義実

(86年卒・アメリカ文化)  
新潟県上越市在住

けやき会主催の寄附講座「経済事情・グローバル時代のキャリア形成」では、開



設時からお世話になっており、昨年の講義で5回を数えました。力不足ながらも、こうして、母校の後輩たちにささやかながらのメッセージを発する機会を持てる幸せに感謝しています。自分の体験談も交えながら、「自己発見のための異文化理解」というタイトルの講義を毎回行ってきました。

今も昔も変わらぬ日本人の泣き所があります。人前で目立つのが恥ずかしい、失敗をしたくない、という思いが強すぎて、好奇心があっても自分を素直に表現できないという性格です。今日も多くの若者がこの種の葛藤と戦っているのではないのでしょうか。「自分らし

さを見つけ、自分を変えていきたい」という気持ちが一歩強かった私は、大学選択に際して、柔軟性と自由度が格段に高いカリキュラムを備えた埼玉大学教養学部に魅了されました。自分を見つめ、生き方を考え、人生の突破口を切り開くための格好の「停泊地」に映ったのです。

ともかくも何かやらねばと思い、まずはがむしゃらに英語を勉強しました。得意だったわけではありませぬ。英語が世界への扉を開け、自分を変えるきっかけを与えてくれるのでは、という直感と憧れがありました。イギリス人のチャールズ・クック先生が教養学部では唯一の外国人英語講師でした。成績評価の厳しさで知られていましたが、先生の懐に飛び込んで、地道に英語力を鍛えました。近くの大学宿舎にお住まいで、垣根の剪定のアルバイトをしたことも懐かしい思い出です。

中でした。大学授業の合間をぬって、予備校授業への出席も敢行しました。英語学習は暗記ではなく思考であるという発想転換を導いてくれた代ゼミの小田実氏の授業を通して、英語を学ぶ羅針盤が大学時代に備わったのは幸いでした。英語が思考の幅を広げてくれる武器であることを自覚すると、大学の学びも厚みが増していきます。言語、文化、社会、歴史などの学問を統合させることにより、本物の実力が培われることを認識するようになりました。アメリカ研究コースでは有賀夏紀先生のゼミに所属しました。レポート提出が頻繁にあり、毎回、真っ赤に添削されて返ってきます。不甲斐なさに落ち込むことも多かったのですが、今振り返ると、先生が注いでくださったご指導、その影響力に頭が下がります。

夢は？と聞かれ、ためらいがちに教員志望であること伝えると、翌日にはもう息子さんの小学校訪問がセツトアップされていました。突然の訪問にも関わらず、学校の先生方、生徒たちの暖かく、自然な接待を受け、アメリカ人の懐の深さ、未来志向の強さを肌で感じたものです。

卒業後、埼玉県内で高校教員を勤めた後、30歳にして、アメリカ大学院への切符をつかみました。その1年前の挑戦はあえなく失敗に終わっていました。3月末になっても合否結果が届かず、職場を去るか残るか。瀬戸際に立たされた私は、挙句の果て、国際電話をかけて問い合わせました。無残にも「否(ノット・アドミットド)」の結果が告げられました。打ちひしがれたのはもちろんですが、電話に出た女性職員の対応に救われました。ファーストネームを伴う励ましの言葉をいただくとともに、担当教員に電話をつないでくれるフエアネス、気遣いを示してくれました。かるうじて捲土重来を期することができたのです。



では6年の歳月を送りました。ロータリー奨学生の恩恵に預かり、ご推薦をいただいた新狭山ロータリークラブには今でも深く感謝しています。大学院修了後は、DC内の黒人系大学で日本語教育に携わりました。帰国後は、地方の人文系大学に長年勤めましたが、このほど縁あって、生まれ故郷(上越市)にある看護大学に移りました。新しい挑戦が続く日々を送っています。

異文化理解の真価は、ネガティブな日本人性を克服するためのヒントを教えてくれるだけではありません。ポジティブな日本人性の自覚をも育みます。森羅万象を敬う日本文化は、争いの絶えない世界に調和をもた

らす素質を備えています。異文化の知恵を借りることにより、自分らしさを失わずに自分の生きる道を切り開いていく。壁にぶつかることにより、ポジティブな展開は生まれます。挫折こそがチャンスです。「自己発見のための異文化理解」に秘められた隠し味はそこにあります。

## 会社経営しながら 人生を楽しむ

平野友紀

(94年卒・現代社会)

さいたま市在住

教養学部を卒業して25年、31歳のときに独立し、現在、さいたま市の大宮区で小さな会社を運営しています。業務内容はおおまかには企、団体の広報支援・情報コンサルティング業務で、デジタル——インターネット関連のサービス(ホームページ作成やWEBシステムの開発)と、アナログ——広報紙などの印刷物の作成(企画、デザイン、取材、執筆、多言語翻訳)と、様々なツールを介してお客様の情

報発信と表現のお手伝い、顧客とのより良いコミュニケーションの橋渡しをする仕事をさせていただいています。

創業者の女性経営者は埼玉ではまだ珍しいようで、30歳くらいで良く独立を決心したね、とよく言われるのですが、私の場合はぼんやりと子どものころから思っていたことが、偶然が重なって何となく実現してしまっただけ、というのが正しいかと思いません。昔国語で習った孔子の論語「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。…」の言葉がずっと頭にあって、30歳くらいで何とか勤め人でも良いので仕事では独立したいと思っていました。

教養学部では現代社会学コース専攻で、当時の深澤建次先生の役割論、相互行為論の授業が大変面白かったです。2年間先生の同じ授業を取ってしまい、よく先生の教授部屋に押し掛けては先生の論文を書く時間を邪魔した記憶があります。私は郷里が遠いので、大学進学の際は両親にもう実家に帰らないとタンカを切っ

て出てきてしまったこともあり、何とかしてでも一人で食べていかななくては行けませんでした。子どものころから絵を描いたり文章を書いたりしてまとめることが好きだったので、自分を取り巻く社会に直に触れることができる、今のような情報・メディアコミュニケーションの仕事をしたいと思っていました。就職活動は80社ほど受けましたが、結局、社長の人柄と直感で、地元の小さな埼玉の地域情報誌の出版社に就職しました。

その出版社には独立するまで約8年間勤務していましたが、その間、いかにこの仕事で自分が自分の力で生きていけるか、どのくらいの仕事ができるのかを模索していました。そんな中、4年目くらいになると、広告営業もしていたのが功を奏して、会社の業務に関わらず、個人に仕事を依頼してくる顧客が少しずつ現れ始めました。結局、ひとりですべての仕事を引き受けてしまい、社内でひとり事業部を立ち上げていました。その仕事は、今の自分の会社の業務の基礎になっています。当時の社長には、自分の

仕事はなるべく時間外に行い、売上げ会社に入れていたとはいえず、人数が少ない会社で雑誌を毎月編集・発行する大変忙しい職場でしたので、業務上大変迷惑をかけたと思います。

そして、出版業界がインターネットの出現で大きく変化し、売上げに影が出始めてから数年、2001年に、勤務先の社長が心筋梗塞で急に亡くなってしまった。昨日まで元気に一緒に仕事をしていた人がもう今日はこの世にいない、ということを経験し、ますます「人は死んだら終わり、それ以上でもそれ以下でもない。悔いのない人生に」「今が一番大事なのだ」と思うようになりました。

その時にすでに会社で受けていた仕事を自分が引き継いで、周りの方の力を借りつつ自分ひとりで最後まで仕上げたのが、独立のきっかけです。なので、そのときの会社には、自分の独立へのテイクオフを緩やかにさせてくれたのだと感謝しています。結局、会社は引き継ぐことはできずに別法

人にしたのですが、ある意味の事業承継の形だったのかもしれない。

現在は業務がインターネットの分野まで広がっていますが、出版社勤務の時代の経験と学んだことが生きています。顧客も、その時の人脈が広がって、今につながっています。ありがたいことです。

プライベートでは、趣味は、論理的に考えたり、五感を使って直感的に感じたりと、脳の使う部分を変えるようなことを交互にすることです。

「交互にすることが、脳の活性化とリラックスにどうもつながっているようです。具体的に言うと、論理的に考えたりに考えることは、本を読んだ



インターンシップの学生と

り思いついたことをメモに書きつけたりすること。五感を使って直感的に感じることは、茶道や料理や縫物、美術館めぐりや音楽を聴くこと、瞑想すること。仕事では多くの方にお会いしたくさんお話するので、自分を整えてパワーチャージするためにも、プライベートでは逆に静かにゆっくり過ごしていることが多いです。

これからの夢ですが、私も人生も折り返しになり、今年から多拠点の生活をスタートします。仕事はもちろん、それ以上に人生ももっと楽しみたいと思うようになったからです。会社の拠点はそのままこの埼玉に置き、経営は続けていきます。幸い、自社の業務がインターネットを介してできるので、スタツフともインターネットでコミュニケーションを取りながら、それぞれの人生のライフスタイルの変化に合わせた柔軟な働き方ができるように挑戦していきたいと思っています。場所に縛られない仕事と人生は、これも子どものころからの夢です。心身の健康を大切にし、どんな未来が待っているか、まだまだ自

分自身に期待をかけて、ワクワクできる自分でありたいと思っています。

(株)メディア工房  
〒330-0852

さいたま大宮区大成町

1-435-5 柳川第3ビル 2階

TEL 048-661-5432

FAX 048-661-5433

E-mail

[hirano@studiomedia.jp](mailto:hirano@studiomedia.jp)

URL

<http://www.studiomedia.jp>

## 現役生から

## 大学生活について

安藤映理子(3年)

文化人類学専攻

岐阜県立恵那高校出身

埼玉で一人暮らしを始めて3年が経ちました。家を出たい一心で地元から遠い埼玉大学を選びましたが、引越し前夜になって家族や犬と離れたくなくて大泣きしたことを今でも覚えています。出発のときには普段あまり話さなかった祖父から激励の手紙を貰い、それを読んでまた泣いて

泣いてばかりの引越してした。

涙に始まった大学生活でしたが、今はとても楽しいです。一人暮らしにも慣れ、学業、部活動、アルバイトに励みながら充実した日々を送っています。その中で一番思い入れのある、部活動について書きます。

私が所属しているのは埼玉大学合気道部です。2015年に51期生として入部しました。合気道を簡単に説明すると、相手が攻撃する力を利用して相手を制する武道のことです。総合体育館に専用の道場があり、部のOBであるプロの先生方に指導をしてもらえると

いう環境にとっても恵まれた部活です。

もともと私は文化系の人間で、入学前は体育会系の部活に所属するとは思っていませんでした。新歓期に先輩に捕まった時、「まずいことになった」と内心焦ったのを覚えています。しかしそれは杞憂に終わりませんでした。合気道は体験してみるととても楽しくて、部の雰囲気とても良かったので2回目の体験ですぐに入部を決めました。

合気道はあまり知名度の高い武道ではありません。そのこともあって私の同期はほぼ全員が未経験者でした。ゼロから始めた私にとっては、「親」の代である当時幹部だった先輩方の合気道が全てでした。皆さんも経験があると思います。歳が自分と1、2歳しか違わなくても先輩というのとは、遊びでは隔たり無く面倒を見てくれた先輩方のごとは、もちろん今もですが、心から尊敬していました。大好きでした。

そんな素敵な先輩方のもとで1年稽古をし、私は無

事茶帯を取得。そして年度の終わりにには幹部交代です。不思議なもので茶帯を取ってもちゃんと上達した実感は持たず、こんな状態で新入生を迎えられるのか、さうに上の黒帯を目指せるのか不安でした。そして、自分に最初に合気道を教えてくれた先輩方が引退してしまいうことが本当に寂しかったです。

不安や寂しさを抱えながらも2年生になり、黒帯を目指して稽古することになりました。今思えばここが一番苦しかった時かもしれませんが。稽古をしても思ったように結果が出ないこと



に悩み、正解が無いために目標を見失いそうになっていました。

つらい時に支えてくれたのは同期です。一緒にご飯を食べに行ったり銭湯に行ったりして、励まし合い時には愚痴も言い合いました。この何でも気兼ねなく言える関係に本当に助けられたと思います。埼玉での稽古後に町道場に行くため北浦和まで大慌てで自転車を飛ばしたのも、やつぱりサボることにしてラーメンを食べることにしてラーメンを食べて帰ってきたのも今となっては忘れられない思い出です。

先輩や同期に恵まれ、私は無事黒帯を取得することができました。3年生になった今は、稽古で後輩の指導をしながら幹部としての部の運営に当たっています。時間が過ぎるのは本当に早く、あれよあれよという間に幹部になってしまいました。正直なところ、未だに自分の技にも仕事ぶりも自信が持てていません。

私が1年生の頃にある先輩が、「みんな少しは不安を抱えたまま幹部をやっている」と言っていました。私は、あんなすごい先輩なの

にどこが不安なのだろう、と信じられずにいました。今年度の新入生も未経験者ばかりです。私は憧れだった幹部になりました。新入生たちにとって私が尊敬できる格好い先輩なのかは分かりませんが、慕ってられる子もいるあたり、先輩の言っていたことは本当か

もしれないなと思います。私は今年の2月末で引退です。幹部生活は残りわずかですが、自分が納得のいくように、そしていい先輩だったと別れを惜しんでもらえるように、全力で稽古に取り組んでいこうと思います。

私は今年の2月末で引退です。幹部生活は残りわずかですが、自分が納得のいくように、そしていい先輩だったと別れを惜しんでもらえるように、全力で稽古に取り組んでいこうと思います。

## 難民問題解決は 小さな第一歩から

吉田智哉(3年)

国際開発専攻

青森県立八戸東高校出身

いま、この原稿を書き上げ、これまでの生活を振り返っているのですが、時が経つのはとても早いと感じています。もう今年で4年生、大学生活ラストの年と

なっていました。この埼玉大学に入学したのが3年前とは考えられません。青森県の田舎から、この埼玉大学の教養学部に入学生した理由は、当初は「英語が好き」で「国際開発・協力に何となく興味があったから」でした。田舎出身の僕にとつて、「東京に近い」ということだけでとても舞い上がって、他の友達より少し早めに引越しをしたことを今でも覚えています。

初めて大宮駅に降り立った時には建物の大きさ、綺麗さ、人の多さに驚愕し、都会に来てしまったと思っていました。大学で知り合った友人に、あのオイオイってなに？と聞き、マルイだよ、知らねえの？と馬鹿にされた記憶も鮮明に残っています(笑)。

さて、その日からこれまでの大学生活を振り返ります。一人暮らしや、大学生の生活というものに慣れてからは、学業とバイト、サークルが生活の中心となっていました。多くの人と友達に支えられ、今このように楽しく学校生活を送られていると改めて実感しています。その中で、自分にとって大きな経験となった学業分野、ゼミでの話をしたいと思えます。

私は国際開発学ゼミに所属しています。高校生の頃、何となく興味があったからとこの分野を勉強し始めたのですが、そのゼミに参加している学生は、途上国支援の団体に所属し活躍している学生や、1年間大学を休学し途上国支援のインターンシップに参加する学生など、実行に移している学生が多く所属しており、私はそれに非常に大きな影響を受けています。当初の何となく、の気持ちがいよいよ

確かに興味が変わっていています。しかし私はそのような学生にはとても及ばないので、現在は座学だけでもと、なるべく遅れをとらないように努力をしているところです。

そのゼミ内で私は大変貴重な経験をさせていただきました。ゼミで難民問題について勉強し、より理解を深めるためにフィールドワークを行いました。現在難民問題が顕著な、中東のヨルダンに実際に有志の学生で行きました。そこで現地での支援団体やチャリティ、JICAなどとアポを取り、概要・事業の見学をしたり、実際の難民の方に質問をさせていただったりしました。早い段階から団体とアポを取り、計画を立て質問を考



ヨルダンの砂漠の崖にて



え、ワークを充実させるために、と準備をしました。(4年生の先輩に非常に助けていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。)

ヨルダンに行く親に伝えるときは、「危ない国なんじゃないの?」と言われましたが、実際に行ってみるとそんなことはありませんでした。皆様本当に優しく、ここまでの道のり分かりますか?と道端にいる人に聞くと「一緒に行くからついてこい」とか、「このバスに乗ってこう行って」とか、「今日俺もここ行くから案内するよ!」など、非常に多くの人に助けられました。

このような温かい国で難民問題なんて・・・と考えていましたが、実際に難民の方のお話を聞かせていただいた際に、「自分の故郷に戻りたい」「生きていて何も楽しめない」と非常に悲しげな表情で話してください、衝撃を受けました。

自分がどんなに恵まれているのか、この方たちも自分達と同じ生活をしていていきなり全てを奪われたんだ、とか、薄っぺらい言葉の

ように聞こえるかもしれないが、言葉では表せないくらいの衝撃でした。現地団体も、ここではあえて深くは言いませんが、どうか彼らを救おうとしていました。

この衝撃や現実を受け、私が考えたことは、「私たちには何ができるか」です。日本は難民受入れに関して他国と比べて寛容とは言えません。学生の自分たちが国の政策など大きな話を変えることは不可能でも、小さくても何かできることがあるのではないかと考え、現在有志で難民問題について広報活動を行うための準備をしています。「どんな小さなことでもできることはある」ということを学び、常に念頭に置き取り組んでいます。

「他人ごととは思わず、まずは意識し理解しようとする」これこそが、難民問題に限らず、すべての第一歩だと思ふようになりました。自分にできることを、それが例えどんなに小さなことだったとしても、やる。今だけではなく、今後の生活において忘れずにいきたいと思いました。

## けやき会 寄附講座

けやき会の寄附講座の名称は「経済事情」で、内容は「グローバル時代のキャリア形成」です。この講座は全学部の学生が対象ですが、教養学部と経済学部の学生が多い。卒業生である講師陣は昨年とほぼ同じで、民間会社や公務員・教員として世界を相手に活躍している。したがって貴重な経験とどのようにキャリアを積んでいったのかをスライドなどを見せながら語っていた。学生時代の過ごし方にもアドバイスし、激励していた。



### 講師一覧

- 中村義実 (86年卒)  
新潟県立看護大学
- 平野友紀 (93年卒)  
(株)メディア工房
- 石澤和也 (10年卒)  
慶応大学大学院。  
(株)クボタ
- 羽賀美樹 (13年卒) 関西電力グループ
- (株)ジェーニック
- 設楽咲紀 (11年卒)  
日本国際協力センター  
留学生事業部
- 鶴谷武親 (90年卒)  
ポリゴンマジック社長、早稲田大学商学大学院客員准教授。米国のIT企業などで活躍。起業とその失敗など経験
- 田口美一 (81年卒)  
金融経済アナリスト、元日本銀行、元東京海上、元クレディ・スイス証券
- 澤渡貞男 (70年卒)  
元ジャラルパック・サンフランシスコ支店次長。
- 関西大学講師  
滝澤三郎 (72年卒)  
国連UNEP協会理事長。  
元国連難民高等弁務官事務所駐日代表
- 榎木 誠 (70年卒)  
元日本経済新聞編集委員  
けやき会会長
- 赤津光一 (70年卒)  
元 JETRO ポーランド事務所長
- 中川和弘 (04年卒)  
カルフォニア大学大学院。元三菱マシーナリー勤務。現在、コンサルティング企業でバンングラディッシュ勤務
- 小篠一英 (79年卒) コミュニケーション実験室 (元電通勤務)



# 埼玉大学 ホームカミングデー

## 梶田さん記念講演会

岡田道程

### 講演会

(76年卒・哲学)

昨年10月14日(土)、埼玉大学ホームカミングデーに合わせて、2015年ノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章さん(東大放射線研究所長)の記念講演会が、埼玉大学と埼玉大学同窓会共催の形で行われました。



がないほどでした。演題は「神岡の地下から探る宇宙」。カミオカンデ、スーパーカミオカンデでの実験を基に、地球1万個でも貫通するという謎の素粒子、ニュートリノや重力波による宇宙空間の歪みの話を分かりやすくしてくれました。

講演によれば、30歳を過ぎた頃、実験結果を1年間解析した結果、理論値と実験結果に倍くらい大きな開きがあり、その原因がどこにあるのか、推理小説さながら、あれこれ推測したことが、結果的に質量を持たないと言われていた学会の通説を覆して、素粒子ニュートリノにも極少量ながら質量があり、姿を変える独自の性質(ニュートリノ振動)を持つという大発見につながったらしい。

全体として、物質の究極の世界や宇宙の秘密を探る研究は、ある意味、ロマンと詩情に溢れていると感じました。日本人でノーベル受賞者は、26人(うち日本国籍は23人)。大半が、東大、京大など旧帝大系の大学出身者で占められる中、わが埼玉大学からも輩出したこと

は、大変名譽なことで出席者は一様に感じた様子でした。

### 交流会

講演会(参加者480名)に引き続き、生協の食堂を借りて交流会(参加者264名)が行われ、ここにも梶田さんが同席されて、気さくなお話をされていました。特に、埼玉大学在学中は、弓道部に所属、副部长として活躍した話、学部時代、物理学の勉強をもっとしておけば良かったと言っていた話は、特に印象的でした。気さくなお話に人柄が滲み出ていましたが、飾らない正直な方で、好感が持てました。

**梶田先生の経歴**  
梶田隆章さんは、埼玉県東松山市出身。1981年、埼玉大学理学部物理学科を卒業。東京大学大学院で、小柴昌俊先生(2002年ノーベル物理学賞受賞)に師事。2015年、ノーベル物理学賞を受賞。現職は、東京大学宇宙線研究所長・教授、埼玉大学フェロー。

### インタビュー本

なお、埼玉大学理学部講義実験棟前に、梶田隆章氏ノーベル物理学賞受賞の「記念樹」(Memorial Tree)



が植樹されています。これは、小石川植物園にある、ニュートンが万有引力を発見したことで有名な生家のリンゴの木の接ぎ木から分譲したもので、誰でも見ることができます。同窓会など埼玉大学にお越しの節は、ぜひ二重の意味で歴史的なこの記念樹をご覧ください。

## 2018年度 合格者発表

2018年3月6日、2018年度前期合格者の発表がありました。最近は大卒のホームページに記載され、合格通知や入学手続きの書類が郵送されますので、大学の掲示板にはまばらに

受験生が来る風景です。それでもそれを待ち受けて生協関係者や胴上げをして入部勧誘をするアメフト部がいました。教養学部は131名の前期合格者でした。後期合格者は約30名で、各高校から1名推薦された中で、論文と面接の試験があります。



2018年度教養学部入学案内のデータより

卒業生の就職・進学先 (2012年度～2016年度)

卒業年度	2012	2013	2014	2015	2016
卒業生数 ( )女子内数	197 (139)	196 (133)	198 (120)	194 (118)	207 (121)
就職希望者数 ( )女子内数	166 (118)	170 (118)	177 (111)	173 (104)	187 (113)
就職者数 ( )女子内数	140 (101)	142 (98)	158 (99)	147 (90)	171 (104)

業種内訳

( )女子内数

	2012	2013	2014	2015	2016
農林水産	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
建設	1 (1)	4 (2)	4 (2)	2 (1)	8 (5)
製造	17 (12)	19 (13)	19 (16)	18 (9)	18 (10)
電気・ガス・エネルギー・水道	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (2)	2 (1)
運輸・通信	25 (19)	15 (12)	33 (19)	27 (12)	32 (21)
飲食・卸売・小売	19 (12)	22 (16)	21 (13)	14 (13)	28 (22)
金融・保険	20 (12)	13 (8)	24 (19)	28 (22)	20 (17)
不動産	6 (4)	1 (1)	3 (2)	5 (4)	6 (4)
サービス	32 (25)	31 (22)	20 (12)	20 (13)	25 (10)
教育	5 (2)	7 (6)	11 (5)	7 (3)	5 (2)
公務	14 (13)	26 (16)	21 (10)	23 (10)	21 (9)
その他	1 (1)	4 (2)	2 (2)	1 (1)	10 (4)
大学院進学	14 (7)	14 (7)	6 (2)	15 (10)	8 (3)

主な就職先

(2016年度)

建設・製造	大和ハウス工業株式会社、株式会社大林組、東レ建設株式会社、株式会社LIXIL、ハイオニア株式会社、株式会社ダイショー、不二家株式会社、富士通株式会社、YKK株式会社、ゼリア新薬工業株式会社
宿泊・飲食・卸売・小売	株式会社ユニクロ、ミニストップ株式会社、株式会社しまむら、株式会社ユナイテッドアローズ、資生堂ジャパン株式会社
運輸	東日本旅客鉄道株式会社、株式会社近鉄エクスプレス、日本通運株式会社、株式会社NTTロジスコ、九州旅客鉄道株式会社
通信・マスコミ	KDDI株式会社、株式会社NTT東日本一南関東、LINE株式会社、楽天株式会社、株式会社富士通パブリックソリューションズ、株式会社オービック、株式会社光通信、株式会社フジクリエイティブコーポレーション、SOMPOシステムズ株式会社
金融・保険	大和証券株式会社、みずほ証券株式会社、かんぽ生命株式会社、オリックス・クレジット株式会社、株式会社りそなホールディングス、丸三証券株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、埼玉縣信用金庫、株式会社秋田銀行、株式会社福島銀行、水戸信用金庫、株式会社山陰合同銀行、しのもめ信用金庫、北陸銀行株式会社、盛岡信用金庫、株式会社山形銀行
教育・学習支援業	国立大学法人政策研究大学院大学、株式会社日本入試センター、埼玉県立進修館高等学校、埼玉県立豊岡高等学校
その他・サービス	クラブツーリズム株式会社、日本生活協同組合連合会、全国農業協同組合連合会、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、ANAエアポートサービス株式会社、埼玉県国民健康保険団体連合会、生活協同組合バルシステム埼玉、日本郵便株式会社
公務	埼玉県庁、さいたま市役所、戸田市役所、羽生市役所、草加市役所、長岡市役所、加須市役所、東京都文京区役所、東京都目黒区役所、東京都板橋区役所、茨城県役所、消費者庁、栃木県庁、長野県庁、邑楽町役場、厚生労働省、山形労働局、航空自衛隊、防衛省海上自衛隊幹部候補生学校

出身校の所在地別入学者数

国・地域	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
北海道	6	5	5	1	3
東北	38	36	42	35	32
関東 (うち埼玉)	79 (40)	73 (42)	79 (30)	99 (43)	89 (36)
中部・近畿	24	34	23	32	23
中国・四国	10	7	4	6	2
九州・沖縄	7	10	11	6	7
その他(外国・検定等)	12	5	12	11	6
合計	176	170	176	190	162

2017年度 入学者選抜実施状況

定員	日程	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	追加合格者数	入学者数
160	前期	125	352 ※25	347 ※20	135 ※3	0 ※0	126 ※3
	後期	35	454 ▲17 ○5	191 ▲16 ○5	36 ▲3 ○1	0 ▲0 ○0	29 ▲3 ○1

※留学生 ▲帰国子女 ○海外留学

## 教養学部生の

### 就職状況

2016年度の教養学部卒業生石澤和彦さんの就職状況の解説または感想です。石澤さんはけやき会支援の進路相談会を毎月主催されている(株)クボタの社員です。

### 進路選択の傾向

埼玉大学教養学部での学びを活かし、卒業生は、実社会の各分野で活躍していますが、その傾向は以下のような特長が見られます。

第一に、公務員としての勤務です。教養学部の学生は、それまで各地方の進学高に所属し、その後埼玉大学に進学した方が多く、優秀な学力を保持しているため、各地方自治体、官公庁に採用されている点は教養学部ならではの特性と言えます。教養学部の学生で公務員が一番人気。

第二に、金融・保険業としての勤務です。金融業においては、1円単位にまでこ

だわる実直さ、人物の信頼感が非常に重要となります。就職先一覧に記載された金融・保険業の就職先から見ても、埼玉大生の真面目さが評価されている事がわかります。

第三に、メーカーでの採用数の多さです。メーカーは一般的に飾らない、堅実さが社風としてあります。

2016年以前からの進路実績を見ても、教養学部生はメーカーを受験する場合、大学生活で培った堅実さが評価されていると考えられます。

また、グローバル・ガバナンスの学生は、①開発コンサルタント②米国の財団法人③国連関係の団体などに就職しており、非常にグローバルに活躍しています。

埼玉大学教養学部での学びを活かし、卒業生は、実社会の各分野で活躍しています。

### けやき会支援

#### 教養学部

#### 石澤進路相談会

1月24日(月)、本学は、就職活動で色々な悩みを持つている学生のために、以下の要領で、進路相談会を開催しております。ポイントとしては、以下3点となります。

①教養学部生が自分に信じてるようになる

②学生同士が集まる事で互いに高め合う

③教養学部同窓会として開催する為、完全無料

#### 1. 講座の目的と概要

①就活生が「第一志望企業」から内々定を頂く事

②就活対策・講義を実施し、早期に「就活の核」を体得すること

③講師及び参加社会人の経験から、就活に関して「生の情報とアドバイスを聞くこと

④上記②と③により、就活の「勝ちパターン」を学び、実践すること(就活における急成長)

⑤参加費完全無料

2. 講座内容

・講師及び参加社会人が、自身の就活体験を踏まえ、就活する上での明確な指針を説明

・各自が持参したES及び履歴書の添削を実施(講座

参加前にあらかじめESを作成する)

・講師及び参加社会人が、模擬面接官となり、面接練習を複数回実施。面接の際、他の就活生らのフィードバック有

3. 注意点

・進路相談会の基本方針

① 様々な業界を見て視野を広げ、実際に受験する際は、志望業界を最大2つまでに絞り込む

② 受験する企業は最大15社。但し、全ての会社から内々定をもらえるように、徹底的に対策する

③ 他の学生ではなく、なぜ自分を採用すべきか(他の学生との差別化、「粘り強さ」などの簡単な言葉で良い)、同業他社ではなく、なぜその会社を志望するのか、必ず明確化する

・就活マニュアルを、開催月それぞれで毎回配布

4. 主要進路一覧

(過去6年間)

大手総合商社・日本政策金融公庫・大手自動車会社・クボタ・ヤマト運輸・JCB・セイコーエプソン・オートリブ・フジクラ・住友重機械・NOK・情報システム商社・東洋紡・ティ・エステツ

ク・江崎グリコ・大手総合商社グループ会社・富士通マーカーディング・ニュージエック・さいたま市・東京都港区・税理士法人・大手資産運用会社など

5. 講師連絡先

石澤和也

(株)クボタ勤務・埼玉大学卒業・慶應大学大学院修了・090-3640-4277

kazuya.shizawa@kubota.com



# けやき会総会 講演会・懇親

## 総会

2017年けやき会総会を6月24日(土)に北浦和駅前の埼玉県立近代美術館で開催しました。

### 講演会

午後1時半から梶島邦江埼玉大学名誉教授の講演「埼玉の魅力を探して」を市民にも公開しました。

### 講演会の概要

まちづくりや地域の活性化などを専門としてきた経

験を講演されました。埼玉県の特産品である狭山茶の付加価値をつけ、海外にも輸出する事業に支援してきたなどの例を挙げ、地域住民を巻き込んで地域の活性化について実践されてきた貴重なお話でした。

### 同窓会総会

活動・会計報告・活動計画など全議案が承認された。

活動では寄附講座が学生に好評なのか、昨年今年と100名前後の聴講があったと報告があった。役員改選では若返りを図るため、2016年度、島田満(90年卒)、稲葉雅美(92年卒)、2017年度は新たに足立創(76年卒)が常任理事に選出された。学生が親しく懇談できた。

### 懇親会

懇親会は総会に引き続き近代美術館の中にあるレストランで行われた。33名と学生が数名出席。名誉教授の関口順、田代脩、小松寿雄、岡崎勝世、山野清二郎、高山巖などの諸先生も参加していただき、稲葉雅美さんの司会でにぎやかに懇談が進み、最後に記念撮影を撮りました。

## 祝 田代脩先生

### 瑞宝中綬章受章

### 田代脩先生の叙勲を

#### お祝いする会

埼玉大学名誉教授の田代脩先生は2017年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。先生は1968年に埼玉大学教養学部に着任、2004年に定年退官されるまで36年間、同学部で教鞭をとられ、多くの学生の教育・指導に当たられました。



御専門は日本中世史研究(室町・戦国時代の領主・荘園)で、『新編埼玉県史』を始め多くの自治体史編纂や文化財の保護行政にも深く関わって来られました。このたびの叙勲はこれらの業績や功績が高く評価されたものと存じます。そこで先生ご夫妻をお迎えして、教養学部で先生と深く関わりのあった旧教官の方々、日本文化・歴史学コースの卒業生・大学院修了者48人が集まり、7月22日(土)浦和ロイヤルパインズホテルでお祝いする会を催しました。先生の退官のお祝い以



## 卒業記念

### パーティー

来13年ぶりに再会した者も多く、祝賀の気持ちと懐かしさで盛り上がった集まりとなりました。

2017年度の卒業式が3月27日(火)の午前中、大宮駅西口のソニックシティーで行われました。その後、午後3時から教養学部卒業記念パーティーが4年生の実行委員会主催で行わ



れました。場所は、大宮駅東口の南銀座「ボンボンバザール」で立食パーティー形式でした。乾杯がまず先に行われた。市橋秀夫学部長挨拶やけやき会会長の祝辞の後、けやき会から研究教育支援費を贈呈された。歓談になり、学位授与、優秀論文（哲学歴史専攻の湯山真君）の発表が行われた。途中、景品が当たるビンゴ大会で盛り上がりました。今年からビンゴ大会にけやき会から3万円分の景品（1等はドイツニーランドペアチケットを指定）を提供しまし



研究教育支援金贈呈



2018/03/27 17:15



2018/03/27

た。けやき会をここで宣伝しておきたい意図がありました。たまたま1等は最優秀論文を受けた湯山君に当たりました。そして記念撮影をして午後5時半ごろ終了しました。



**ゲリラ豪雨を予測する  
気象レーダー設置**

埼玉大学への設置は、首都圏に位置し、近隣に高層ビルが少なく、電波環境がよいことから本学への設置が決まりました。

埼玉大学では鉄道総合技術研究所・山口大学とともに、豪雨予測の利活用の一つとして鉄道の運転規制のための自然災害の評価手法に関する研究の1つを担当しています。

2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。埼玉大学へ気象レーダーを設置することで、その会場予定地をほぼカバーできます。

**来年で埼玉大学  
創立70周年**



2019年度に迎える埼玉大学創設70周年に向けて、キャッチフレーズを校内で公募し、教養学部の上村真由さんの『つなげよう未来へ』が採用されました。ロゴは教育学部の高須賀教授が制作されました。今後、記念事業には、このキャッチフレーズとロゴを使って、学内外にPRすることです。

**埼玉大学へのバス路線**

埼玉大学には国際興業バスと西武バスの2社が乗り入れています。一番多いのが北浦和駅西口行きで2社が競っています。埼京線の南与野駅まで少し歩く停留

**関東で住みよい街に  
9位大宮、10位浦和**

所があります。

次に多いのが国際興業バスの志木駅東口から埼玉大学経由南与野駅東口行きです。1時間に2本程度あります。ほかに同社で北朝霞駅から埼玉大学経由南与野駅東口行きがあります。1時間に1本程度でしょうか。最近できた路線が国際興業バスの南与野駅から埼玉大学経由ららぽーと富士見経由ふじみ野駅東口行きです。でも1日に4本くらいしかありません。

ほかに桜区コミュニティバスが市民医療センターから埼玉大学経由西浦和駅、経由中浦和行きが1日11本あります。

住宅・不動産情報サイトSUUMOによると、2018年の住みよい街ランキングで、関東で総合ランキングに9位に大宮、10位に浦和が入りました。渋谷、中目黒を抑えての堂々のランキング入りです。そんな街に近くにある総合大学が埼玉大学です。ちょっといい気持ちになりますね。

# 2018年度埼玉大学ホームカミングデーのお知らせ

日時 10月13日(土) 1時半 場所 埼玉大学

全体会 午後1時半～ 301教室

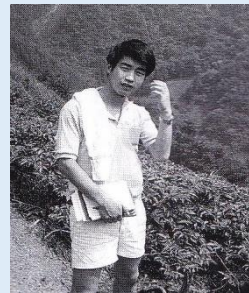
講演会 午後2時45分～ 301教室

**多数の参加をお願いします!**

講演 **小松和彦 教養学部2回生(1970年卒) 文化功労者  
国際日本文化センター所長 文化人類学者**

学生の頃、秩父の調査

埼玉大学時代の秩父の山深い集落調査で、オサキ狐や奇怪な現象の話の聞き、日本や世界の異界や妖怪などの研究の道に入る。妖怪画像からの解説はわかりやすい。



懇親会 午後4時～午後6時 会費 2000円程度 第2食堂

**※時間は予定ですので、最終的には大学のHPで確認してください。**

## 教員の移動

**退職 (平成29年度)**

澤田和彦 (

日露関係史・ロシア文学)

**異動 (平成27年度)**

① 日本語教育センター所属  
教員は全て大学院人文社会科学研究科(学際系)所属教員となる。

嶋津拓 (言語政策)

新井高子 (詩人、日本語教育)

小熊秀雄 賞受賞者

金井勇人 (日本語教育学)

② 国際室所属教員は全て大学院人文社会科学研究科(学際系)所属教員となる。

中本進一

(留学生カウンセラー、異文化コミュニケーション)

## 新規採用

(平成27年度)

近藤久洋 (国際開発学)

中川聡史 (地理学)

フライデー・カール

(日本中世史)

(平成28年度)

高畑悠介 (英文学)

(平成29年度)

佐藤雅浩 (歴史社会学)

劉志偉 (日本語教育学)  
長沢誠 (国際交流渉外担当、  
教育社会学)

(平成30年度)

市川康夫 (地理学)

鮮 于媚 (日本語音声学)

辻絵理子 (美術史)

富田晃正 (国際政治経済学)

成田健太郎 (前近代中国文学)

## 埼玉大学

### 同窓会

埼玉大学には、5学部連合の埼玉大学同窓会があります。各学部や学科単位で同窓会が独自に同窓会事業を行っておりますが、埼玉大学同窓会は2018年度からさらに各学部の連携を強化いたします。そのため今年度から同窓会費について、大学側のご協力を得て、同窓会費(全学部同額の3万円)納付先を「埼玉大学同窓会」に一本化しています。なお2017年度以前入学生は従前通り1万5千円のままになります。大学同窓会事務局は大学内に1室を持っていて事務

を行っております。現在、平日の月、水、金の午前中だけに在勤しています。  
住所 〒338-8570  
さいたま市桜区  
下大久保 255

電話 048-858-9218

e-mail

dousou@gr.saitama-u.ac.jp

## むつめゴルフ会

毎年10月に大宮国際カントリークラブで開催されています。平日にセルフプレーで乗用カートを使っています。参加費は昨年は3千円。プレー費は1万円程度。プレー後、レセプションがあります。ぜひ参加して親睦を深めましょう。写真はむつめゴルフのフェイスブックより。



**教養学部在校生の専攻別人数**

専修課程	専攻	2年生	3年生	4年生	留年生	合計
文化環境専修課程	芸術論・メディア情報論専攻				1	1
グローバル・ガバナンス専修課程	国際関係論専攻	11	20	18	9	58
	国際開発論専攻	4	14	13	9	40
現代社会専修課程	社会学専攻			41	9	50
	フィールド科学専攻			20	7	27
	社会コミュニケーション専攻	40	26			66
	地理学文化人類学専攻	19	27			46
哲学歴史専修課程	哲学専攻	11	7	9	4	31
	芸術論専攻	4	15	11	1	31
	歴史学専攻	14	20	20		54
ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程	ヨーロッパ文化専攻	34	19	33	13	99
	アメリカ研究専攻	8	19	17	1	45
日本・アジア文化専修課程	日本文化専攻	10	18	15	4	47
	東アジア文化専攻	2	4	4	1	11

2017年度より現代社会専修課程が社会コミュニケーション専攻と地理学文化人類学専攻となりました。



10名程（8名以上でも可）同窓生の集まりに、けやき会より1万円補助します。2017年度は田代脩名誉教授の瑞宝中綬章受賞を祝う会一つだけの補助金申請があっただけです。もともと同期生や先生を囲む会とか企画して補助金を申請してください。

いつでも間に合う

**ミニ同窓会に  
補助金を支援**

埼玉大学古本募金は、古本(DVDも)を送っていただき、その査定額を埼玉大学基金に寄付する取り組み。

**古本募金**

**埼玉大学基金へ、**

○埼玉大学基金

詳細はホームページをご覧ください  
インターネット検索  
○埼玉大学  
○埼玉大学基金

埼玉大学基金は、その目的の一つである「埼玉大学インターナショナルレジデンス(国際学生寮)」の整備について、創立70周年を迎える平成31年10月の完成を目指して準備を進めている状況です。  
さらに、埼玉大学基金内に新たに「埼玉大学修学サポート基金」を設立し、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行っているっております。

**埼玉大学基金へ、  
ご協力を!**

5点以上は送料無料です。詳しくはインターネット検索「埼玉大学 古本募金」を見てください。

**けやき会役員募集**

けやき会の役員は現役の方が多く、実務を行う人手が足りません。退職後、何かボランティアをやりたいなど思っている方はぜひ役員に応募してください。そんなに忙しくないので、自分のペースでできます。

発行者

埼玉大学けやき会

(埼玉大学文理学部文学科・

人文科、教養学部、文化科学研究科 同窓会)

会長 榎木誠

編集 関根増男

埼玉大学けやき会事務局

〒358-8570

さいたま市桜区下大久保 2125

埼玉大学教養学部内

メールアドレスは

info@keyakikai.net

埼玉大学同窓会事務局

dousou@mail.saitama-

u.ac.jp

電話・048-858-9218